

教育についてのアンケート調査報告書【概要版】

平成30年5月 さいたま市 教育委員会事務局

調査の概要

■調査の目的

市の中長期的な目指すべき教育の方向性を示す「さいたま市教育総合ビジョン」の更新にあたり、市内の児童生徒、その保護者、教職員、校長の教育等に関する意識や状況を把握し、ビジョン更新に向けた基礎資料とするために、本アンケート調査を実施しました。

■調査の方法

実施時期：平成29年10月

調査方法：学校を通じた配布と回収

■調査対象と回収状況

| 対象 | 校名 |
|-----|---------------------------------|
| 小学校 | 宮前、東大成、大宮、東宮下、大戸、土合、常盤、文蔵、原山、城南 |

| 対象 | 校名 |
|--------|----------------------|
| 中学校 | 植水、土呂、八王子、大久保、東浦和、桜山 |
| 高等学校 | 大宮北、大宮西、浦和、浦和南 |
| 特別支援学校 | ひまわり、さくら草 |

| 対象 | | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|------|--------|-------|-------|-------|
| 児童生徒 | 小学校 | 966 | 814 | 84.3% |
| | 中学校 | 670 | 547 | 81.6% |
| | 高校 | 155 | 146 | 94.2% |
| | 特別支援学級 | 64 | 48 | 75.0% |
| | 小計 | 1,855 | 1,555 | 83.8% |
| 保護者 | 小学校 | 966 | 818 | 84.7% |
| | 中学校 | 669 | 550 | 82.2% |
| | 高校 | 155 | 139 | 89.7% |
| | 特別支援学校 | 151 | 118 | 78.1% |
| | 小計 | 1,941 | 1,625 | 83.7% |

| 対象 | | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-----|--------|-----|-------|--------|
| 教職員 | 小学校 | 304 | 270 | 88.8% |
| | 中学校 | 173 | 153 | 88.4% |
| | 高校 | 59 | 54 | 91.5% |
| | 特別支援学校 | 14 | 9 | 64.3% |
| | 小計 | 550 | 486 | 88.4% |
| 校長 | 小学校 | 103 | 103 | 100.0% |
| | 中学校 | 57 | 57 | 100.0% |
| | 高校 | 4 | 4 | 100.0% |
| | 特別支援学校 | 2 | 2 | 100.0% |
| | 小計 | 166 | 166 | 100.0% |

■報告書を見る際の注意事項

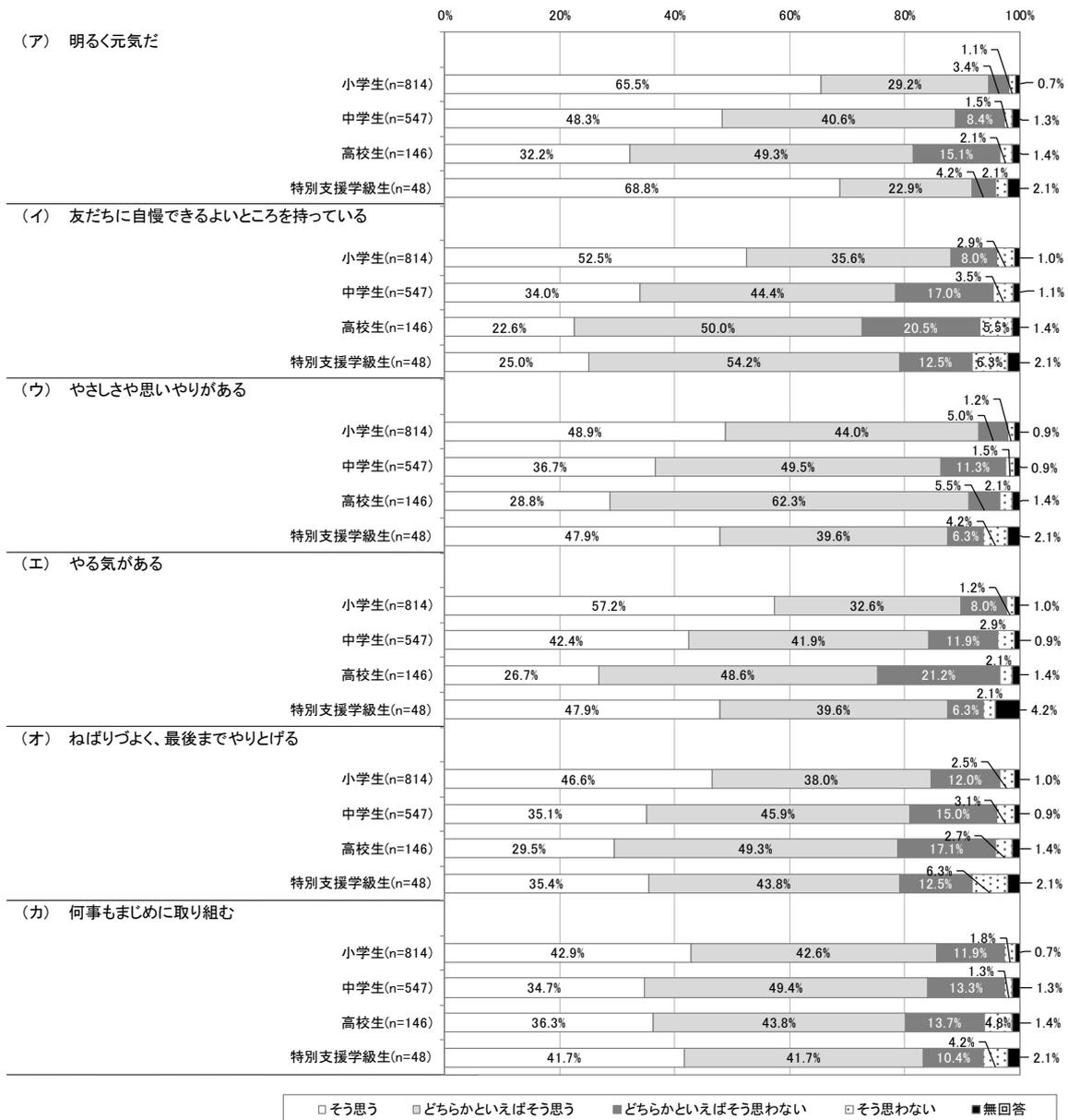
- 図表中の「n」は、設問への回答者数を示しています。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、少数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計は100%を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

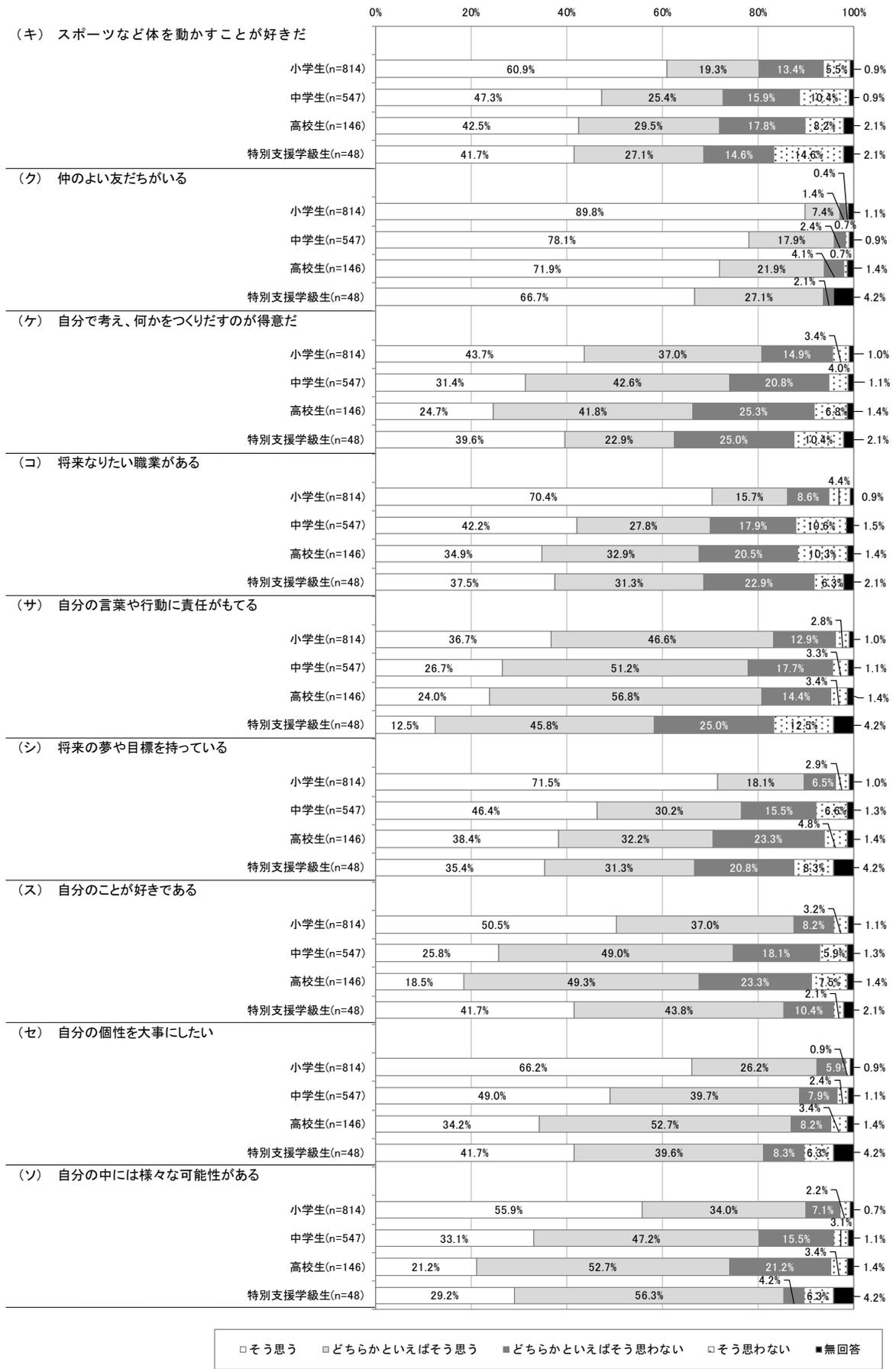
児童生徒調査結果

自分自身や将来について

人の性格や考え方に関する前向きな表現に対して、自分自身も「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と肯定的に捉えている人の割合は、全体としては年代とともに減少する傾向にありますが、「やさしさや思いやりがある」、「ねばりづよく、最後までやりとげる」、「何事もまじめに取り組む」、「自分の言葉や行動に責任がもてる」、「自分の個性を大事にしたい」については、80%から 90%台の肯定的回答が年代に関わらず維持されています。

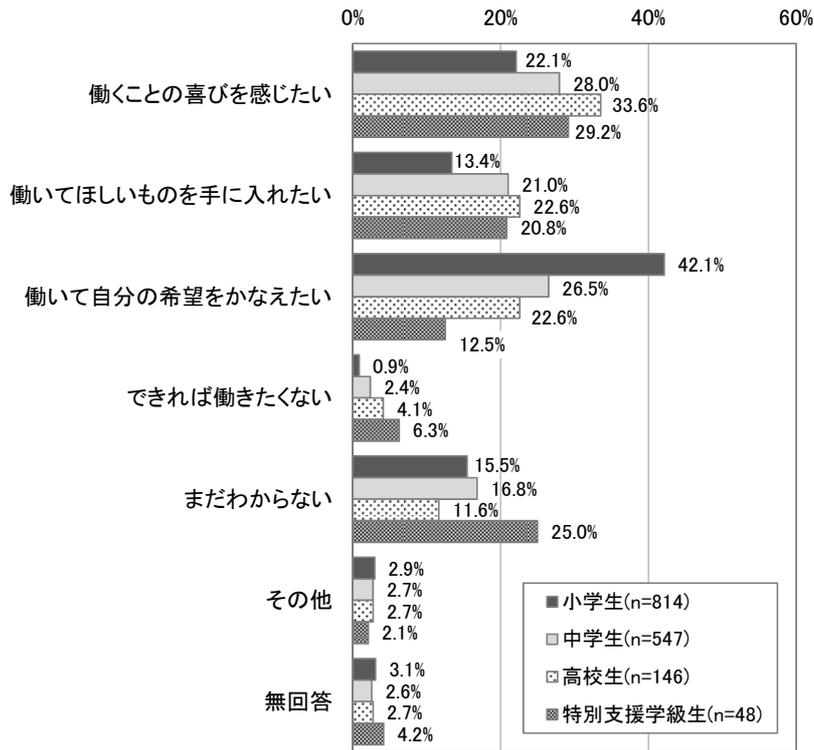
【自分自身についてどう感じたり考えたりするか】（問2）





働くことについて、「働くことの喜びを感じたい」や「働いてほしいものを手に入れたい」との回答は年代とともに多くなる傾向にあります。一方、「働いて自分の希望をかなえたい」との回答は小学生 42.1% に対して中学生では 26.5%、高校生では 22.6%と低下しています。3 ページのグラフに示された「(コ) 将来なりたい職業がある」についての肯定的回答の割合も、小学生では 86.1%であるのに対し、中学生は 70.0%、高校生は 67.8%と、年代とともに減少する傾向となっています。

【働くことについてどのように考えているか】（問 12）



勉強・先生等について

「先生との関係がうまくいっている」について「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答は、年代とともにゆるやかに減少していますが、「友達との関係がうまくいっている」についての回答には、年代間で顕著な違いはありません。一方、「学校の授業がよくわかる」、「クラスの係や委員会活動が楽しい」、「クラブ活動・部活動が楽しい」についての肯定的な回答は、年代が進むにつれて急速に少なくなっています。

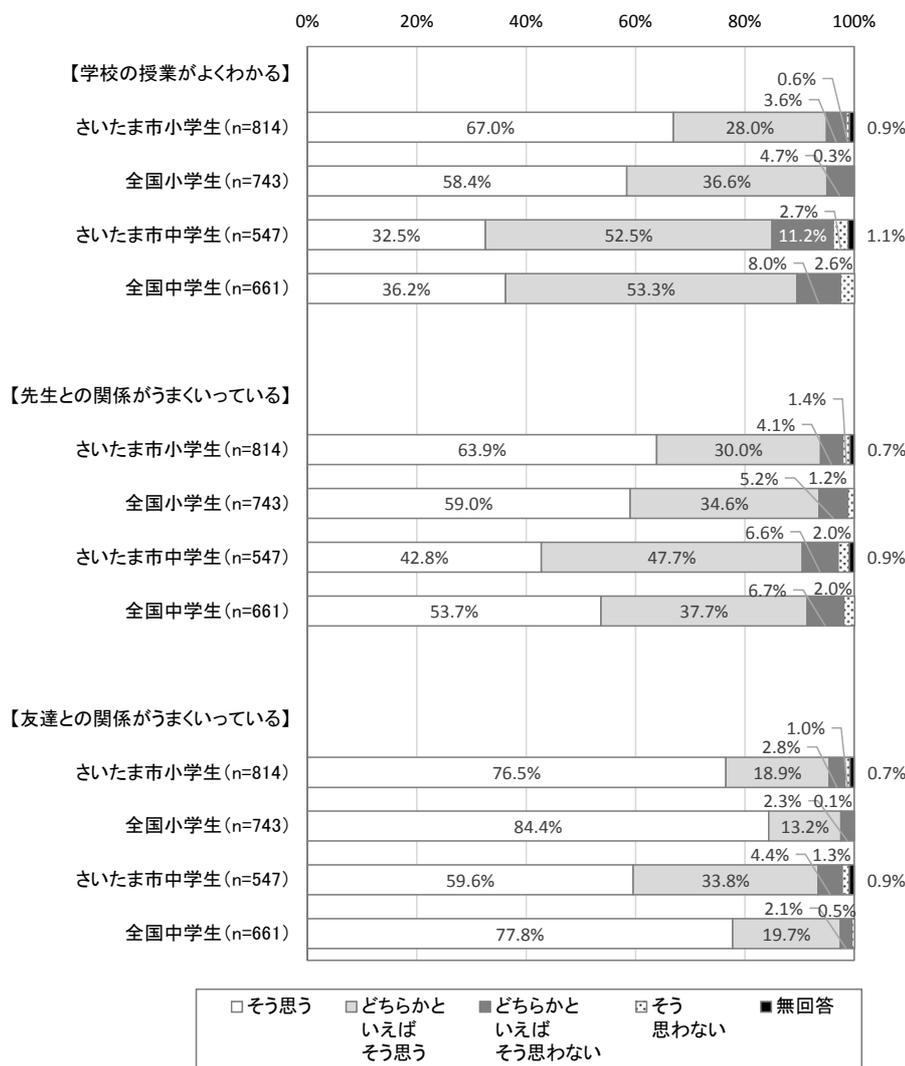
【学校生活についてどのように感じているか】（問3）



平成 25 年度に内閣府が行った全国調査と比較すると、「学校の授業がよくわかる」について、本市小学生の95.0%は全国と同じ割合で、更にその内訳も「そう思う」67.0%（全国 58.4%）、「どちらかといえばそう思う」28.0%（全国 36.6%）と、本市のほうが「そう思う」との回答がより多い、良好な結果となっています。

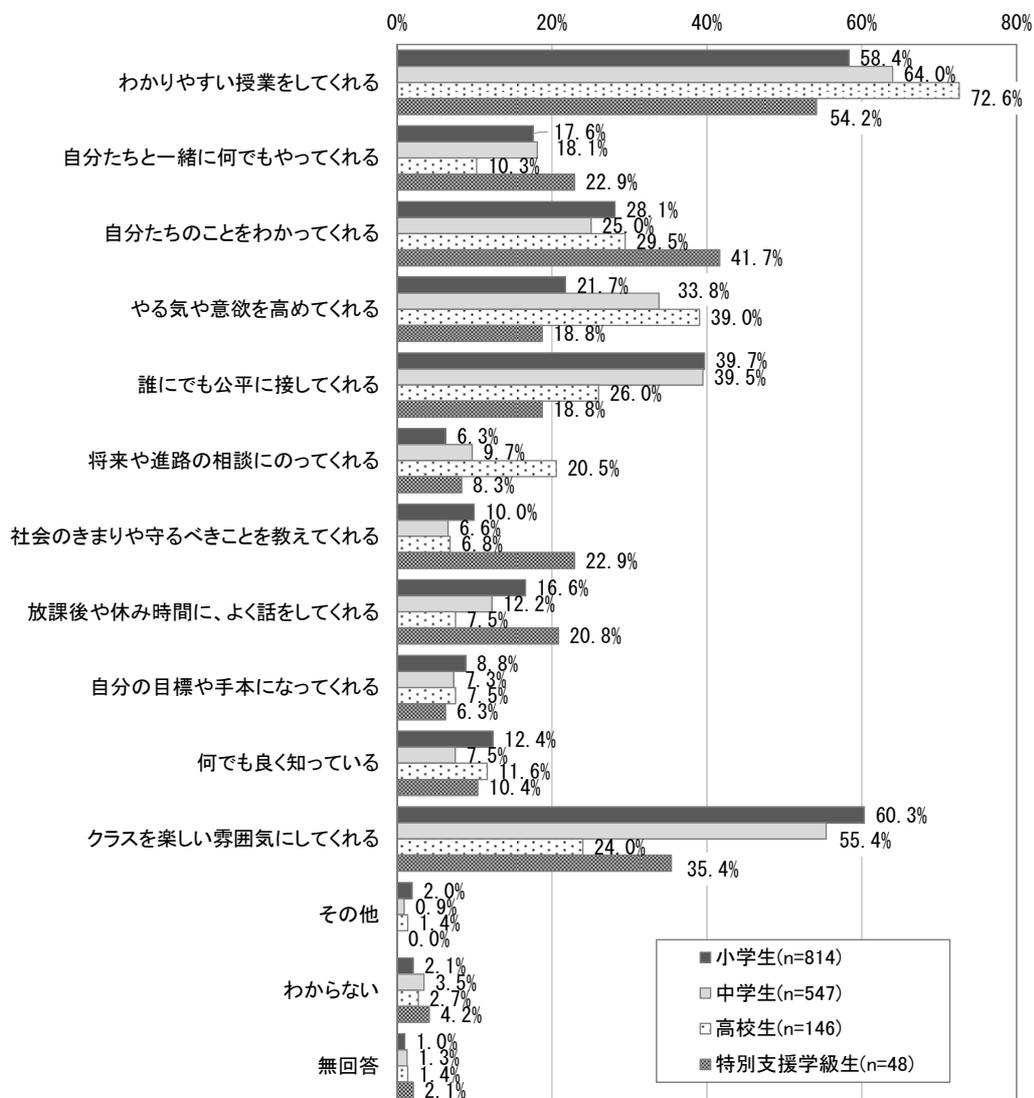
一方、中学生では、「学校の授業がよくわかる」について、本市の肯定的回答は全国中学生よりも 4.5 ポイント低く、また「どちらかといえばそう思わない」との否定的回答が 11.2%と全国よりも 3 ポイント余り高くなっています。

【学校生活についてどのように感じているか】（全国との比較）



教わりたい先生については、「わかりやすい授業をしてくれる」との回答が中学生 64.0%、高校生 72.6%でそれぞれ最も多く、小学生でも 58.4%で、「クラスを楽しい雰囲気にしてくれる」の 60.3%に続く第 2 位となっています。

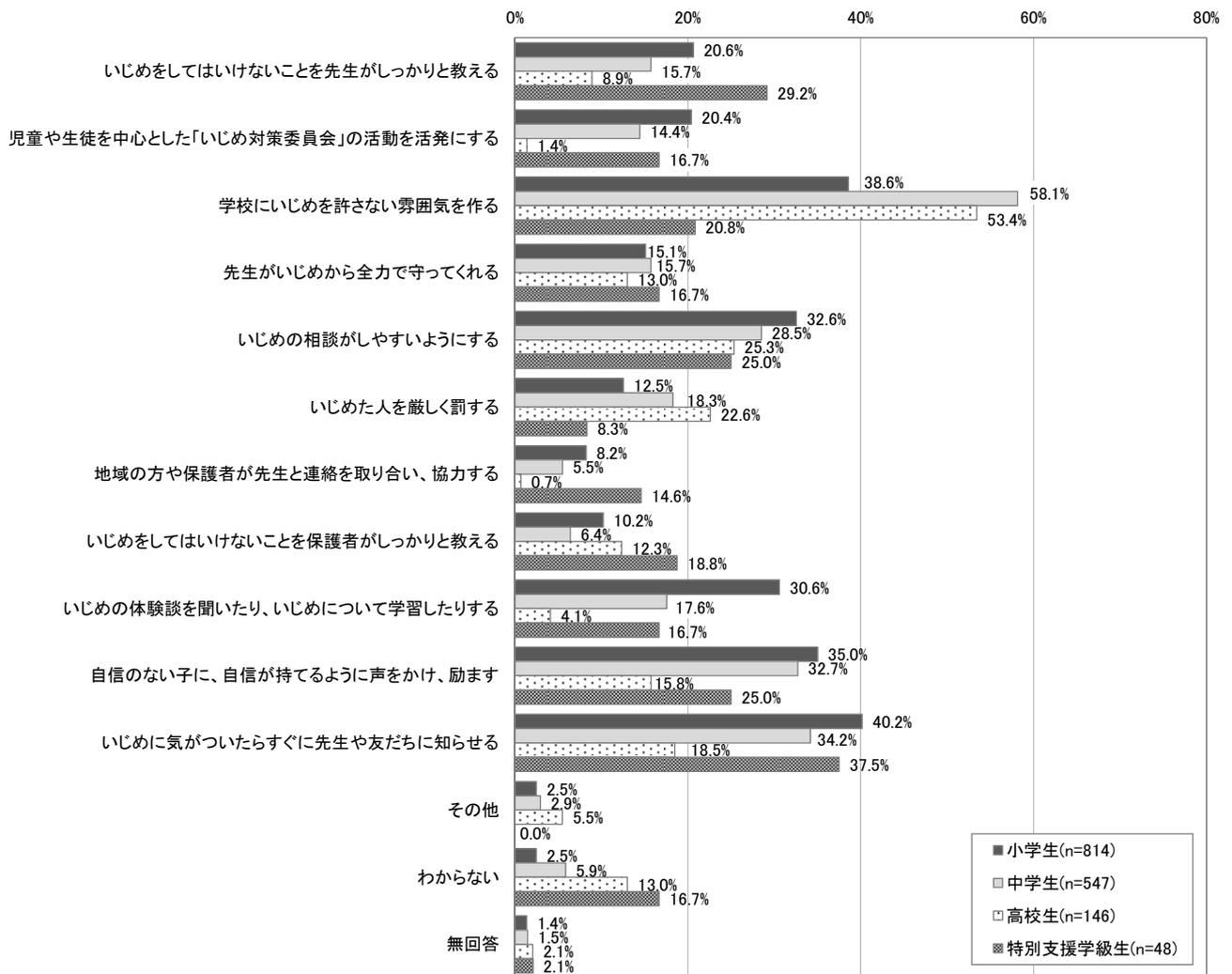
【教わりたい先生】(問 7) ※ 3 つまでの複数回答



いじめ・悩みについて

いじめを減らしたり解決したりするためにできることについては、「学校にいじめを許さない雰囲気を作る」との回答が中・高校生では最も多く、小学生でも第2位となっています。小学生で40.2%と最も多い「いじめに気がついたらすぐに先生や友だちに知らせる」は、中学生では34.2%、高校生では18.5%まで低下しており、「いじめの相談がしやすいようにする」も年代とともに徐々に低下する傾向にあります。一方、年代とともに伸びているのは、「いじめた人を厳しく罰する」と「わからない」となっています。

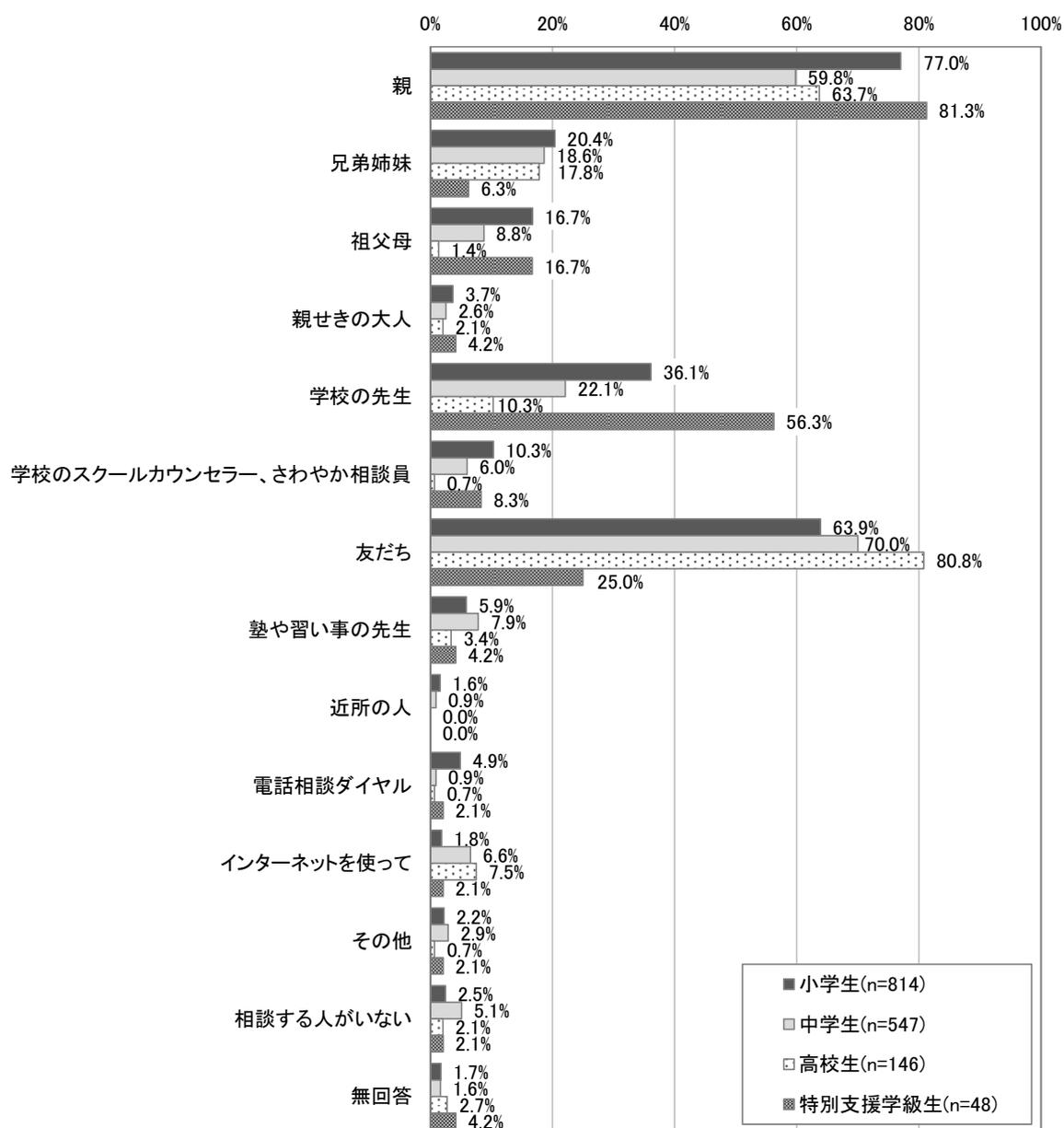
【どうしたらいじめを減らしたり解決したりできると思うか】(問8) ※3つまでの複数回答



小学生から高校生まで、悩みを相談する相手としては、「親」や「友だち」が1・2位となっています。「学校の先生」との回答は、特別支援学級生で 56.3%、小学生では 36.1%ありますが、中学生では 22.1%、高校生では 10.3%と、年代とともに急速に低下しています。

また、次ページに示すとおり、先生は「相談したいときに、よく話を聞いてくれる」ということについて、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と否定的な回答をした人の割合は、小学生 9.1%に対し、中学生は 12.8%、高校生は 14.4%と、年代とともに上昇しています。

【悩みや不安なこと、自分だけでは解決できないことを、誰に相談するか】（問 10）※複数回答



【先生についてどのように感じているか】（問6）



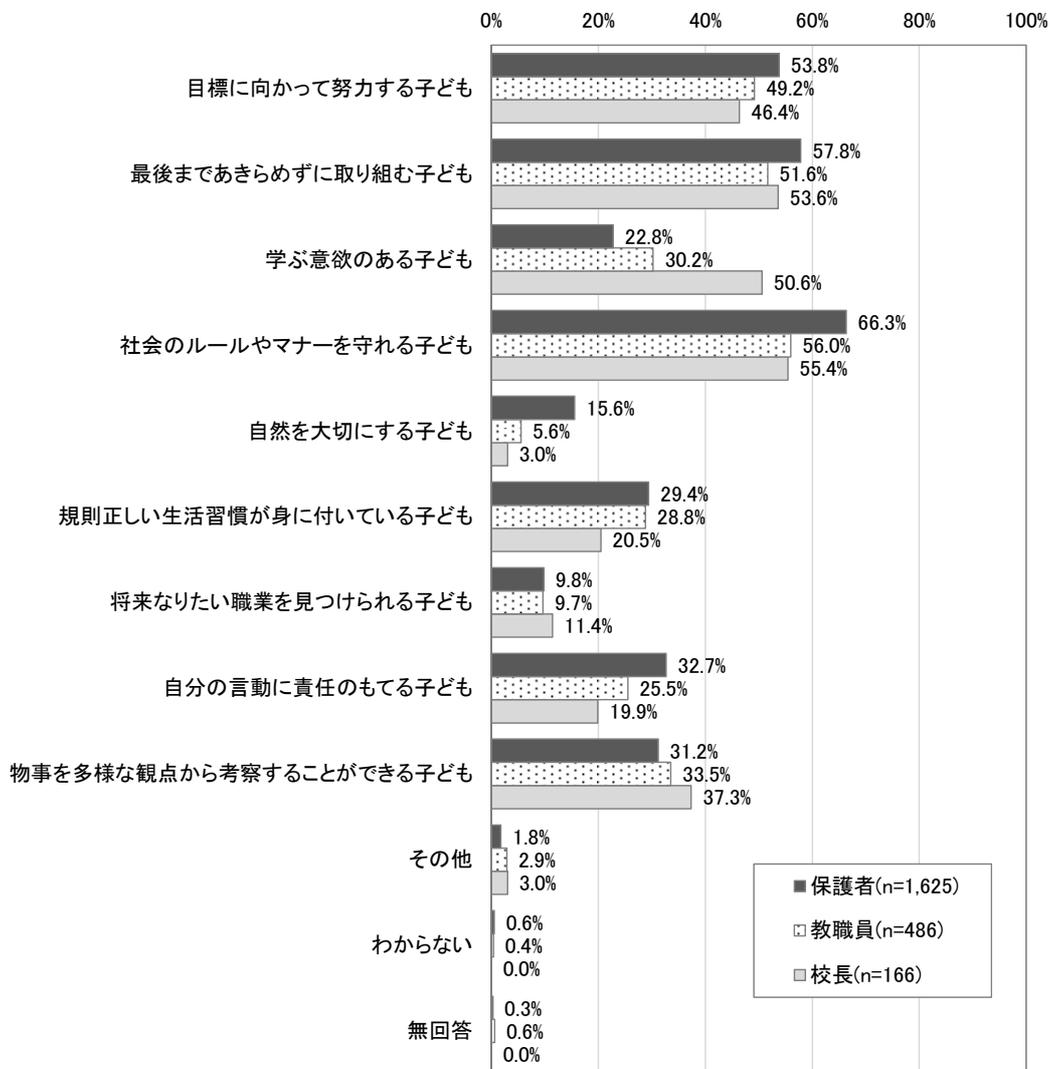
保護者・教職員・校長調査結果

望ましい子どもの姿や資質・能力について

望ましい子どもの姿については、保護者・教職員・校長の3者ともに、「社会のルールやマナーを守れる子ども」、「最後まであきらめずに取り組む子ども」、「目標に向かって努力する子ども」の回答が多く、3者間の望ましい子どもの姿についての主要な思いは一致しています。

3者間で違いが大きく出たのは「学ぶ意欲のある子ども」で、保護者は22.8%、教職員は30.2%であるのに対し、校長は50.6%と2倍前後に達しています。

【望ましい子どもの姿】（保護者 問5、教職員・校長 問9）※3つまでの複数回答

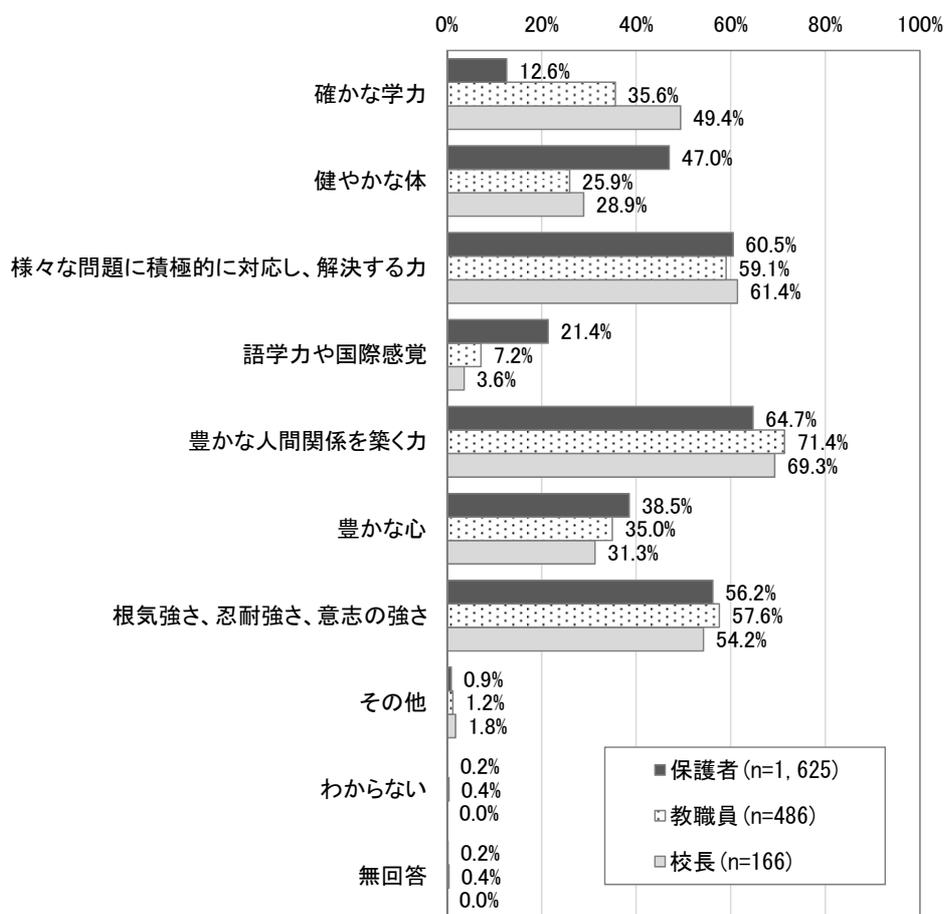


これからの社会を生きるために、子どもに必要と思われる資質・能力についても、回答割合が3位までの項目（「豊かな人間関係を築く力」、「様々な問題に積極的に対応し、解決する力」、「根気強さ、忍耐強さ、意志の強さ」）は保護者、教職員、校長の3者で共通しています。

大きな違いが見られたのは、「確かな学力」（保護者 12.6%、教職員 35.6%、校長 49.4%）、「健やかな体」（保護者 47.0%、教職員 25.9%、校長 28.9%）、及び「語学力や国際感覚」（保護者 21.4%、教職員 7.2%、校長 3.6%）となっています。

【これからの社会を生きるために、子どもに必要と思われる資質・能力】（保護者 問 6、教職員・校長 問 8）

※3つまでの複数回答



学校教育・教員について

今後の教育施策で特に重要だと思うものについては、保護者・教職員・校長 3 者の意識が揃っている項目は多くありません。

「教職員が各々の職務に専念できる体制の整備」が特に重要との回答は、教職員と校長が 6 割を超え最も高い一方、保護者では半分の 3 割程度に留まっています。

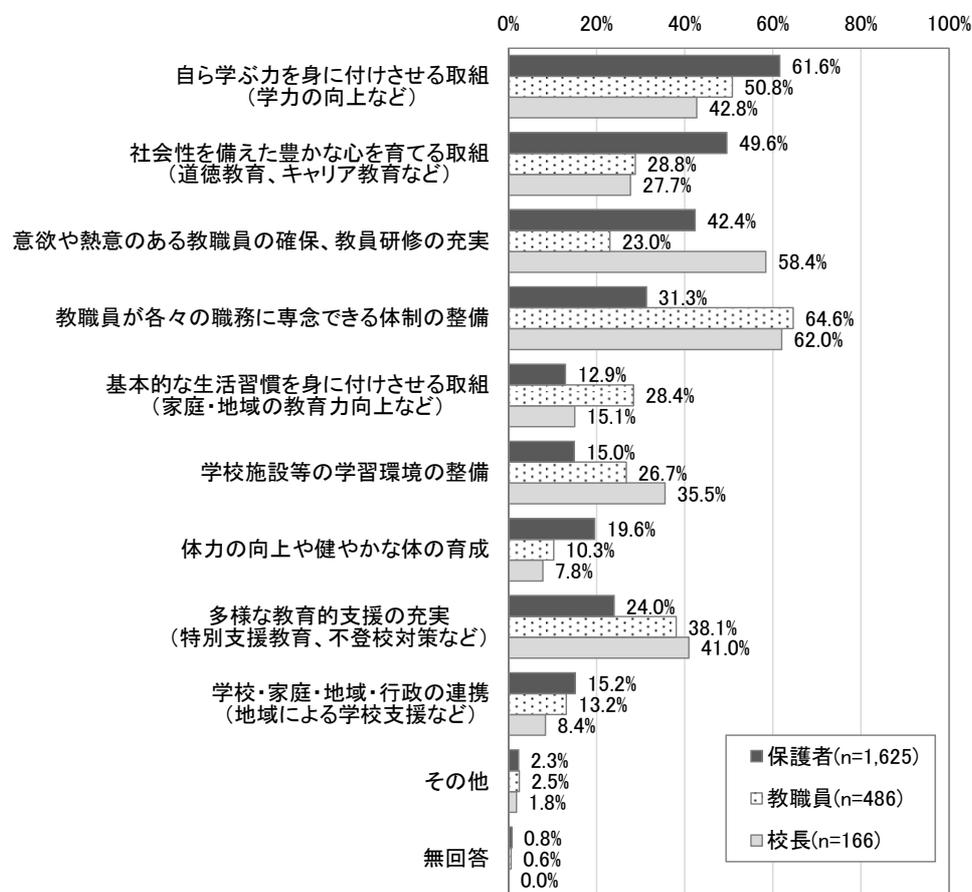
前ページに示されたとおり、これからの社会を生きるために子どもに必要な能力として「確かな学力」を挙げた保護者は 12.6%でしたが、教育施策として「自ら学ぶ力を身に付けさせる取組（学力の向上など）」を挙げた保護者は 60%を超えて最多となっています。しかし、教職員の回答は 50.8%で 10 ポイント余り、校長は 42.8%で 20 ポイント近く保護者よりも低くなっています。

更に、「社会性を備えた豊かな心を育てる取組（道徳教育、キャリア教育など）」については、ほぼ半数の保護者が重要と回答している一方で、教職員・校長の回答は 3 割に達していません。

「意欲や熱意のある教職員の確保、教員研修の充実」では、校長は 58.4%が重要と回答し第 2 位、保護者も 42.4%で第 3 位となっていますが、教職員の回答割合は 23.0%に過ぎません。

「基本的な生活習慣を身に付けさせる取組（家庭・地域の教育力向上など）」の回答割合は、全体的に低いものの、教職員の回答が保護者や校長の 2 倍程度あり、その差は大きくなっています。

【今後の教育施策で特に重要と思うもの】（保護者 問 9、教職員・校長 問 7）※3 つまでの複数回答



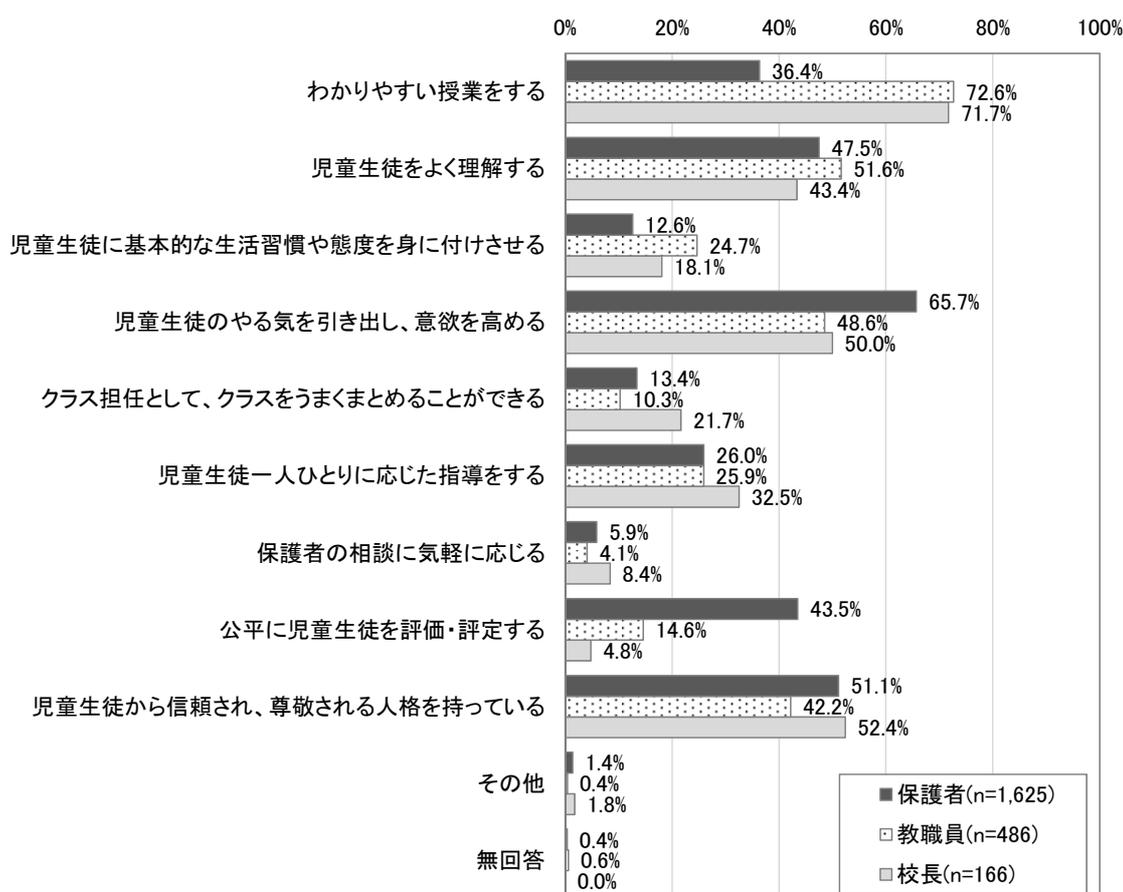
望ましい教員像についての考えでも、3者の間で違いが見られています。

教職員と校長の回答が7割を超えて最多の「わかりやすい授業をする」について、保護者の回答はその半分程度の36.4%に留まっています。7ページに示されたとおり、わかりやすい授業をする先生を求める児童生徒は非常に多く、この点で、教職員・校長と児童生徒の意見は一致しています。

保護者が望ましいとする教員像で最多の回答は、「児童生徒のやる気を引き出し、意欲を高める」(65.7%)で、教職員・校長の回答はそれよりも15ポイント以上低いですが、同じく7ページで「やる気や意欲を高めてくれる」先生に教わりたいとする児童生徒自身の回答は、最も高い高校生で39.0%であることから、児童生徒の希望と教職員・校長の認識の間のずれは大きくありません。

また、「公平に児童生徒を評価・評定する」も保護者では43.5%ですが、教職員では14.6%、校長では4.8%と大きな違いが出ています。教わりたい先生として「誰にでも公平に接してくれる」先生と回答した児童生徒は、小学生39.7%、中学生39.5%、高校生でも26.0%と保護者の回答と近くなっています。

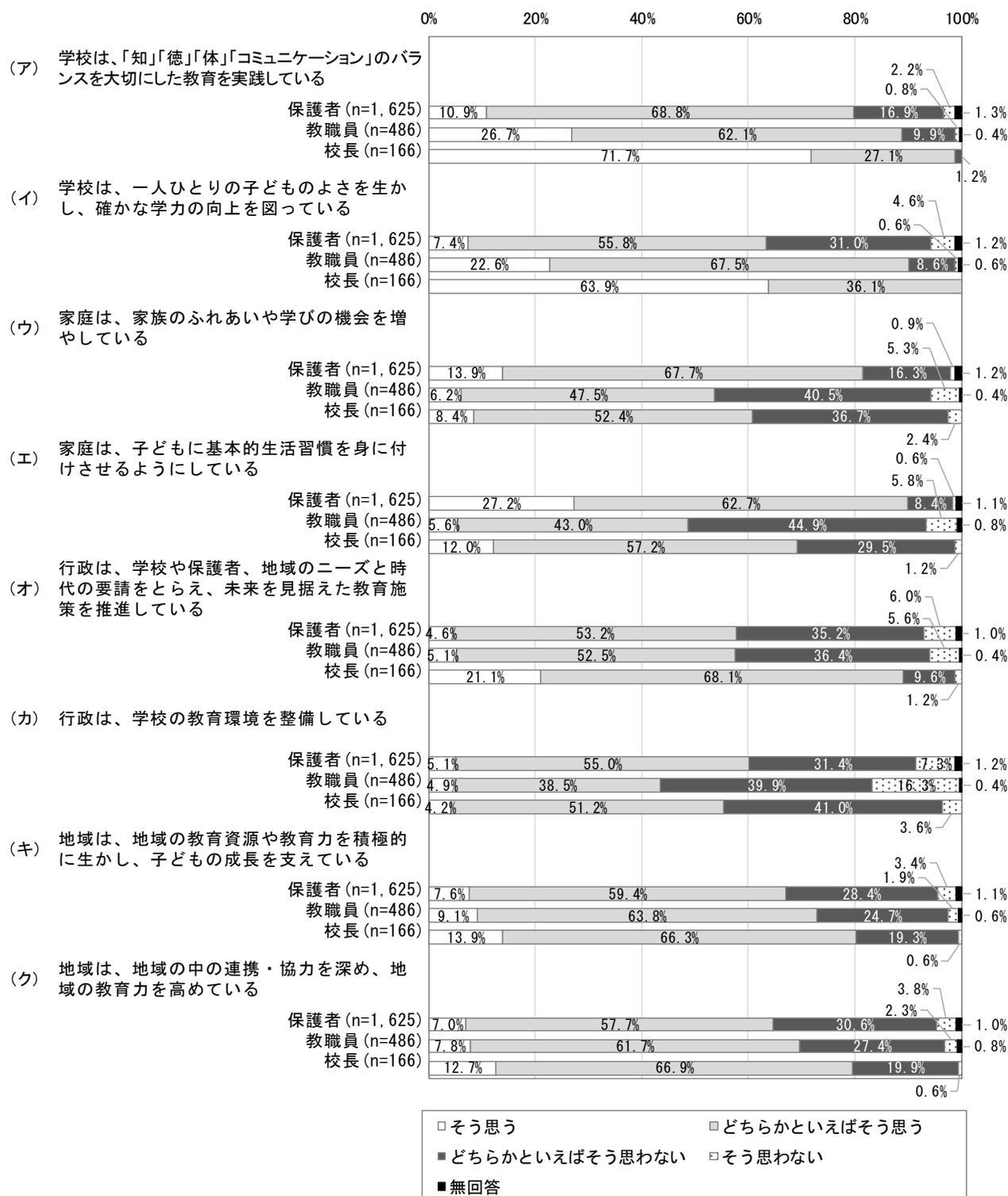
【望ましい教員像】(保護者 問8、教職員・校長 問6) ※3つまでの複数回答



さいたま市の教育施策について

市が行っている、学校・家庭・行政・地域が連携・協力して、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむための教育施策に関する評価では、項目により、保護者、教職員、校長の3者の回答に特徴が見られています。

【さいたま市の教育施策についての評価】（保護者 問 11、教職員 問 10、校長 問 11）



3者ともに評価が高いのは、「学校は『知』『徳』『体』『コミュニケーション』のバランスを大切に
した教育を実践している」で、肯定的な評価が、保護者 79.7%、教職員 88.8%、校長 98.8%となっ
ています。また、「地域は、地域の教育資源や教育力を積極的に生かし、子どもの成長を支えている」と「地
域は、地域の中の連携・協力を深め、地域の教育力を高めている」という「地域」に関する項目への肯
定的な評価も、保護者でそれぞれ 67.0%と 64.7%、教職員でそれぞれ 72.9%と 69.5%、校長でそれ
ぞれ 80.2%と 79.6%と、3者とも比較的高い割合となっています。

一方、取組の主体となる者による評価が、他と比較して高いという特徴を示す項目も見られます。「家
庭は、家族のふれあいや学びの機会を増やしている」については、保護者の肯定的評価が 81.6%である
のに対して、教職員の肯定的評価は 53.7%、校長では同じく 60.8%に留まっています。また、「家庭は、
子どもに基本的な生活習慣を身につけさせようとしている」では、保護者の 89.9%が肯定的に評価してい
る一方、教職員は 48.6%、校長は 69.2%となっており、保護者と教職員では 40 ポイント以上の差が
あります。逆に、「学校は、一人ひとりの子どものよさを生かし、確かな学力の向上を図っている」につ
いては、90.1%の教職員、100.0%の校長が肯定的評価をしていますが、保護者は 63.2%に留まって
おり、教職員・校長と保護者の間には認識に大きなずれが見られます。

更に、「行政は、学校の教育環境を整備している」についての肯定的評価は3者とも低く、保護者の
60.1%、教職員の 43.4%、校長の 55.4%は、全ての施策の中で最も低いレベルにあります。

教育についてのアンケート調査報告書【概要版】

平成 30 年 5 月

さいたま市 教育委員会事務局

管理部 教育政策室

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4

電話：048-829-1626 FAX：048-829-1989